

授業科目名・形態	文章表現	講義	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	越後美緒子	開講期	1 年前期	単位数 2

【授業の主題】

情報が氾濫する現代社会では、「読む」「聞く」「書く」「話す」などの言語能力を高めて、物事を正しく認識・判断し、またみずから正しい情報を発信することは誰にでも求められる。

特に医療・福祉・保健等に携わる専門家として、他の領域との連携を図りながら、その活動を充実・発展させるために必要な表現力を身につけるために、実践的な学習を進める。

【到達目標】

- 1 言葉に対する意識を高め、自身の文章表現力を診断して、今後の学習課題をつかむ。
- 2 その課題の達成方法を見出し、具体的な計画を立てる。
- 3 その計画を試行し、成果を検証してみる。

【授業計画・内容】

第 1 回	[授業計画・内容の概説]	表現とは何か 「医療・福祉」と言葉
第 2 回	[日本語の特性と現状]	和語、漢語、カタカナ語、略語
第 3 回	[表現の種類と特色①]	話し言葉（敬語を中心に①）
第 4 回	[表現の種類と特色②]	話し言葉（敬語を中心に②）
第 5 回	[表現の種類と特色③]	書き言葉（手紙を中心に）
第 6 回	[文章の基礎①]	語彙を増やす 語彙を選ぶ
第 7 回	[文章の基礎②]	文節 センテンス 文末表現
第 8 回	[文章の基礎③]	文体の要点（正確・簡潔・平明）
第 9 回	[資料の収集と活用]	新聞の読み方、資料の保存方法
第 10 回	[小論文の作成①]	レポートと論文 主題の選定
第 11 回	[小論文の作成②]	事実と意見 独自性と説得力
第 12 回	[文章の構成と展開①]	構成案の作成 「段落」の重要性
第 13 回	[文章の構成と展開②]	三段階構成法 重点先行式構成法
第 14 回	[小論文の作成③]	表記のルール 推敲
第 15 回	[表現学習の方法]	「メモ」「書き写しノート」「音読」

【授業実施方法】 講義と演習を組み合わせる。

【授業準備】 各回ごとに次回の予習課題を与え、それをもとに授業を進める。

【主な関連する科目】 「コミュニケーション論」「社会学」「文学」等。

【教科書等】 特定のものを使用せず、各回ごとに教材を配布する。

【参考文献】 国立国語研究所、日本新聞協会、日本看護協会出版会刊行の資料他。

【成績評価方法】 定期試験 70%、小論文 20%、演習課題 10%、として評価する。

【学生へのメッセージ】 古くから「文は人なり」と言われます。書くにしても話すにしても、文＝言葉には、その表現者の人間性がにじみでるものなのです。また、文＝言葉は人間を育てもします。人間性が一朝一夕に身につかないと同様に、文章表現にも楽なノウハウはありません。しかし、日ごろから「意識して」活字、映像、音声などに触れるように努めれば、おのずと文章の表現力はついてきます。